Operation Guide 2505

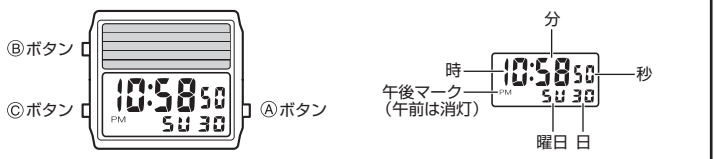
CASIO

この時計は光エネルギーによって動きますので電池は不要です。光エネルギーはソーラーセルによって電気エネルギーに換えられ、キャパシタに蓄えられますので光を当てなくても約 14 日間（フル充電時）使用することができます。

操作のしくみと表示の見方

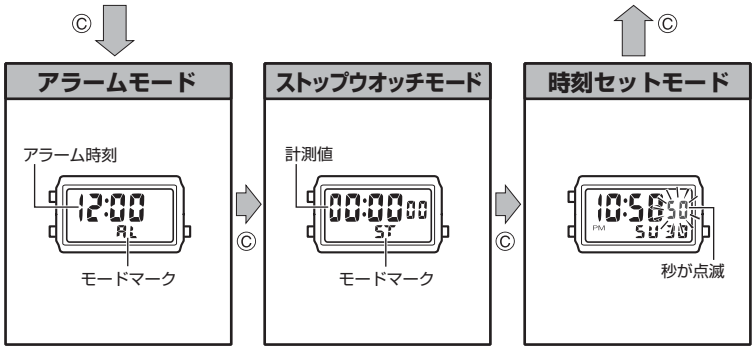
Ⓒ ボタンを押すごとに、以下の順でモードが切り替わります。
※各モードでⒶまたはⒷボタンを押した後、Ⓒボタンを押すと直接時刻モードに戻ります。

時刻モード



★12/24時間制表示切替について
時刻モードで、Ⓐボタンを押すごとに12時間制表示と24時間制表示（“24H”が点灯）とが切り替わります。

★曜日の見方
SU：日　MO：月　TU：火　WE：水　TH：木　FR：金　SA：土



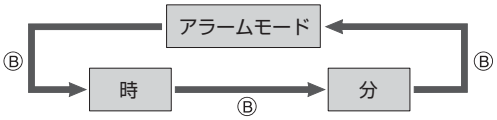
アラーム・時報の使い方

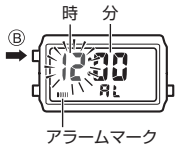
「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸボタンを押し、アラームモードにします。
アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子音で知らせてくれます。また、毎正時(00分)に“ピッピッ”と電子音で知らせる時報もセットすることができます。

●アラーム時刻のセット

(1) **アラームモードのとき、Ⓑボタンを押します**

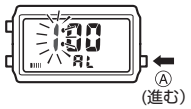
➡Ⓑボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。





(2) **Ⓐボタンを押します**

➡Ⓐボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進みます。
※ 押し続けると早送りします。
※「時」のセットのとき午前／午後（PM）、または 24 時間制にご注意ください。
※ 基本時刻を24時間制にしているときは、アラーム時刻も自動的に 24 時間制で表示されます。



(3) **セットが終わりましたら、Ⓑボタンを押してアラームモードに戻します**

※ 点滅表示のまま 1 ～ 2 分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。
※ Ⓒ ボタンを押すと、時刻モードに戻ります。

●アラーム・時報の ON ／ OFF

アラームモードのとき、Ⓐ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、アラームマーク “▮IIII” と時報マーク “🔔” が点灯／消灯を繰り返します。
それぞれのマークが点灯しているときが ON となり、アラーム・時報が鳴ります。



●鳴っている電子音を止めるには

Ⓑ ボタンを押すと音が止まります。

●モニターアラーム

アラームモードのとき、Ⓐ ボタンを押し続けると、アラーム音が鳴ります。

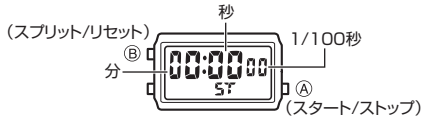
ストップウオッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸボタンを押し、ストップウオッチモードにします。
ストップウオッチは 1/100 秒単位で 59 分 59 秒 99（60 分計）まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に 0 に戻って計測し続けます。

●計測のしかた

ストップウオッチモードのとき、Ⓐ ボタンを押します

➡Ⓐボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。
※計測中にⒸ ボタンを押してモードを切り替えても、計測値には影響ありません（スプリット計測時は除く）。



●計測中にⒷボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります（“SPLIT ” マーク点灯）。
※スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
●計測終了後 Ⓑ ボタンを押すと、計測値が 0 に戻ります（リセット）。

★通常計測

Ⓐ ➡ Ⓐ ➡ Ⓑ
スタート　ストップ　リセット
積算計測… ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずにⒶ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

★スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓐ ➡ Ⓑ ➡ Ⓑ ➡ Ⓐ ➡ Ⓑ
スタート　スプリット　スプリット解除　ストップ　リセット

★1・2着同時計測

Ⓐ ➡ Ⓑ ➡ Ⓐ ➡ Ⓑ ➡ Ⓑ
スタート　1着ゴール（1着タイム表示）　2着ゴール　2着タイム表示　リセット

時刻・カレンダーの合わせ方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⒸ ボタンを押し、時刻セットモードにします。
※時刻セットモードのまま 1 ～ 2 分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

●「秒」合わせ……30 秒以内の遅れ／進みの修正

(1) **時刻セットモードのとき、時報に合わせてⒶボタンを押します**

➡「00 秒」からスタートします。
※ 秒が 00 ～ 29 のときは切り捨てられ、30 ～ 59 のときは 1 分繰り上がって「00 秒」になります（時報は「時報サービス 117 番」が便利です）。

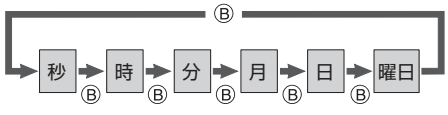


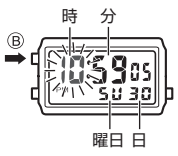
(2) **セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押して時刻モードに戻します**

●「時刻・カレンダー」合わせ

(1) **時刻セットモードのとき、Ⓑボタンを押します**

➡Ⓑボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動しますので、合わせたい箇所を点滅させます。





(2) **Ⓐボタンを押します**

➡Ⓐボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進みます。
※ 押し続けると早送りします。
※「時」のセットのとき午前／午後（PM）、または 24 時間制にご注意ください。
※ 時刻モードのとき「月」は表示されませんが、オートカレンダー機能のために「月」を合わせてください。



(3) **セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押して時刻モードに戻します**

※ カレンダーは大の月、小の月を自動判別するオートカレンダーですので、うるう年の 2 月 29 日以外は修正不要です。

電源について（充電のしかた）

●使いはじめのときは、光（一般オフィス内の光程度＝下表参照）が当たるとクイックスタート回路が作動し、約２秒後に時計が動き出しますので、時刻・カレンダー合わせを行なってください（「時刻・カレンダーの合わせ方」参照）。なお、動きはじめのとき、正規の表示になっていない場合がありますが、時刻・カレンダー合わせにより正常な表示に戻ります。

●充電必要マーク“✥”が点灯してから本機を光に当てないでそのまま使用した場合、約３日で時計機能が停止します。“✥”マークが点灯したときは速やかに充電を行なってください。



充電必要マーク

●“✥”マークが点灯するころになると、アラームの音量が小さくなったり、表示が薄くなることがありますので“✥”マークが消えるまで光に当ててください。

●安定してご使用いただくために、十分な明るさのもとで、充電必要マーク“✥”が消えるまで充電してください（「●充電の目安」参照）。

●安定してご使用いただくために、袖口から時計が出るように腕につけてください。また、時計を外しておくときは、できるだけ明るい所に置いてください。

●充電の目安

条件	環境（照度）	充電時間	条件	環境（照度）	充電時間
時計機能停止から“✥”が消えるまで	直射日光（100,000ルクス）	約45分	毎日動き続けるのに必要な時間	直射日光（100,000ルクス）	約4分
	日の当たる窓際（20,000ルクス）	約150分		日の当たる窓際（20,000ルクス）	約12分
時計機能停止からフル充電まで	直射日光（100,000ルクス）	約120分		一般オフィス内（蛍光灯700ルクス）	約7時間
	日の当たる窓際（20,000ルクス）	約6時間			

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

●炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上

●白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所

●直射日光が長く当たって、高温になる所

なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

⚠ 充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。